

令和7年度 研究主任等研修会について

4月3日（木）に実施しました。今年度は、中部地区内の2校（湯梨浜町立羽合小学校・琴浦町立八橋小学校）の研究主任による実践発表を行いました。2校の研究主任からは、前年度の1年間、どのようにして校内研究を進めていったのか、具体的な取組やその意図等を分かりやすく伝えていただきました。両主任が共通して伝えていた「研究内容はシンプルに焦点化すること」「教職員全体を巻き込むこと」をはじめ、事例を通して校内研究を推進していく上での重要な視点の数々を学ぶことができました。また、グループ協議では、参加者それぞれが知りたいことについて情報交換したり、議論したりするなど、大変活発なやりとりがなされていました。

参加者それぞれが今後の見通しをもち、研究主任としての挑戦意欲を高める会となりました。



◆参加者振り返りより

◆研究を進めるにあたって、「シンプルさ」と「巻き込む」ことを心がけて取り組んでいこうと思う。全職員で取り組めるように具体を示す（例えば、研究計画の図解を作成したり、定期的にお便りを出したりする）ことも心がけていきたい。

◆まず、学校目標をもとに目指す子どもの姿を明確にし、取り組んでいくことを焦点化し、それを全職員で共通理解することを大切にしたい。そして、その決めたことを1年間やり続けていきたい。また、授業研究会で終わりではなく、学年部会などを通して日々取り組んでいるのか振り返る時間も大切にしていきたい。初めての研究主任なので、まずは自分ができることに挑戦し、足りない部分は他の先生に頼りながらPDCAサイクルを回していきたい。

◆初めての研究主任ということで、だいぶ身構えていたが、少し肩の荷がおりた。お話を聞く中で、これからの研究の見通しがもてるようになったことが今回の研修の1番の収穫である。特に、「自己の強みを発揮、足りない部分は人に頼る」という言葉が心に残っている。自分だけではなく、共に高め合う先生の強みが発揮できるような組織づくりに努めたい。そして、研究主任の思いや「熱」が伝わるように情報の発信、共有をしていくことは継続して取り組んでいきたい。児童も教員も自己の成長が実感できるような1年間を目指そうと思う。